

◆佐渡金銀山の情報をお伝えします



佐渡金銀山だより

Sado Gold and Silver Mine Newsletter

海外の産業遺産の専門家が佐渡金銀山を視察



平成24年3月、国際産業遺産保存委員会 (TICCIH) の会長であるパトリック・マーチン氏と産業遺産の世界的研究者であるバリー・ギャンプル氏が佐渡金銀山を視察しました。視察後には、新潟市の朱鷺メッセで国際シンポジウムが開催されました。また、羽茂高校郷土芸能部が佐渡の民謡を披露し、会場は大いに盛り上がりました。



Sado Gold and Silver Mine Newsletter

第6号 INDEX

- 2 ... ▶世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」
- 3 ... ▶佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会 ▶佐渡金銀山絵巻調査検討会
▶相川の文化的景観ワークショップ
- 4 ... ▶親子で歩く世界遺産 ▶参加者の感想 ▶世界遺産登録推進懇談会
- 5 ... ▶史跡保存管理委員会▶佐渡金銀山調査指導委員会
- 6 ... ▶世界遺産連続講座▶首都圏向け佐渡金銀山講演会
- 7 ... ▶鶴子代官屋敷跡・荒町遺跡発掘 ▶テレビ番組「世界を巡った佐渡小判」
▶収録の感想
- 8 ... ▶仲間になりませんか ▶文学碑を訪ねて④ ▶出張説明・出前授業のご案内
▶平成24年度 後半イベント情報

Vol.6

2012.9.30

平成24年 3月20日(火・祝)、新潟市の朱鷺メッセ・マリンホールにおいて、世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を開催し、県民約320名が参加しました。佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会委員長による検討状況の報告と、海外から招聘した産業遺産の専門家による基調講演に続き、学術委員会委員を中心とした専門家が佐渡金銀山の価値と遺跡保護について意見交換を行いました。また、羽茂高校郷土芸能部が佐渡民謡を披露し、会場は大いに盛り上がりました。



◆佐渡金銀山世界文化遺産 学術委員会報告

小風秀雅氏

(学術委員会委員長、お茶の水女子大学大学院教授)



佐渡金銀山は、単に600年もの長期間稼働しただけでなく、各時代の鉱山技術が島の中で場所を変えながら残っていることが大きな特長であり、世界の中でも希有な存在である。現在、西三川砂金山、鶴子銀山、新穂銀山、相川金銀山の4鉱山を候補として検討しているが、確実な登録を期するため、今後の議論によっては資産が増減する可能性がある。

◆講演「世界を舞台とする産業遺産」

パトリック・マーチン氏(国際産業遺産保存委員会会長、米国)

佐渡鉱山の価値が世界で共有されることが世界遺産として登録される要素となる。完全性・真正性の追究及び保存管理の確立

が推薦書を作成する際に重要となるが、佐渡がこれらについて必要な要素を持っていることを確認した。世界遺産としての価値を歴史的・科学的に証明をしていくためには慎重な調査が求められる。国際記念物遺跡会議(ICOMOS)や国際産業遺産保存委員会(TICCIH)との関係を深めて調査を進め、佐渡鉱山がアジア随一の産業遺産として登録されることを祈念する。

◆講演「金属鉱業遺跡と世界遺産リスト」

バリー・ギャンプル氏(世界遺産コンサルタント、英国)

自分が推薦書作成に関わり2006年に世界遺産に登録された、英国の「コーンウォールと西デヴォンの鉱山景観」を紹介する。コーンウォールでは採掘に蒸気機関が動力として用いられた。これはコーニッシュエンジンと呼ばれ、この地から世界各地の鉱山に広まった。コーンウォールが発端となる技術が世界各地に鉱山景観として今も残っていることこそ、「コーンウォールと西デヴォンの鉱山景観」が世界遺産であることの真の価値である。

◆パネル・ディスカッション「産業遺産としての佐渡金銀山の世界的価値」

パネリスト…パトリック・マーチン氏、バリー・ギャンプル氏、稲葉信子氏(学術委員会副委員長、筑波大学大学院教授)、市原富士夫氏(文化庁文化財部記念物課文化財調査官)
コーディネーター…西村幸夫氏(学術委員会委員、東京大学副学長)



マーチン氏

佐渡の鉱山絵巻は技術の詳細・人々の日常生活・環境への配慮が描かれた、内容豊かで質の高い史料だ。600年間の鉱山技術の痕跡が残っていることは貴重である。世界遺産登録には“人々の営み”が重要となる。技術は“人々の営み”を中心に捉えることによって意味を持つ。



ギャンプル氏

佐渡は金山としての価値が特に顕著である。相川のように、各時代の遺跡が山から海に向かって「産業回廊」のように残っている点もすばらしい。世界遺産の目的は単に登録することではなく、この遺産群を未来の世代に伝えていくことである。



稲葉氏

佐渡では鉱山の歴史が近代まで続いてきたことが重要である。江戸時代の技術の蓄積の上に明治以降に欧

米の近代技術が入ってきた。佐渡が産業革命の受け手として、グローバル化の波にどのように対応していったかについて解明していく必要がある。



市原氏

最近の世界遺産登録の傾向を見ると、登録そのものよりもその過程を大切にしているように思う。佐渡も自信を持って、今までの伝統や生活をより良くしていくという視点から、継続的な保存への取組として佐渡鉱山の世界遺産への登録を考えていただきたい。



西村氏

有形資産に加え“人々の営み”のような無形資産もきちんと評価した上で、どの部分を世界遺産として切り取るかを考えることが重要である。佐渡の全体像を知る取組が必要であり、その全体のすばらしさがあって初めて切り取った部分も光り輝くことになる。

佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会

世界遺産登録のための推薦書案を検討している学術委員会では、平成27年の推薦書提出に向けて、準備を重ねています。平成24年3月の第6回委員会では、国際シンポジウムに招聘した国際産業遺産保存委員会（TICCIH）の会長であるパトリック・マーチン氏と産業遺産の研究者であるバリー・ギャンプル氏を迎え、活発な議論が行われました。両氏は、600年にわたる鉱山技術を示す遺跡群を高く評価するとともに、現在の相川市街地や上相川遺跡など鉱山に関わる町並みや集落遺跡にも高い関心を示しました。鉱山とそれを支えた人々の生活の痕跡がそろってこそ、世界遺産登録が可能であろうというアドバイスがありました。



同年6月の第7回委員会では、平成23年度の調査・研究成果を報告し、平成24年度の目標を確認するとともに、登録基準の検討を行いました。これまで検討してきた佐渡金銀山が世界に与えた経済的な影響については、証明が難しいという結論となりました。

平成24年度の目標は、世界遺産登録のため金銀山をめぐるコンセプトと登録基準、構成資産を固めることです。そのため、海外の研究者も交え、計4回の委員会開催を予定しています。学術委員会の議論の行方によっては、ストーリーや構成資産が変わっていくことも想定されます。学術委員会は世界遺産にふさわしい佐渡金銀山の価値を見い出していくと、真剣に取り組んでいます。

佐渡金銀山絵巻調査検討会

平成24年5月28～29日及び7月20～21日の2回にわたり、佐渡金銀山絵巻調査検討会を開催しました。この検討会には全国各地から採掘・製錬・貨幣史といった各分野の研究者が参加しており、発足から4年目を迎え、国内外に100点以上存在するといわれる佐渡金銀山絵巻の研究も次第に深まってきました。

平成24年5月に東京の国立科学博物館で、小判の色揚げ（金と銀の合金であるため白っぽい色をしている小判の表面を加工して山吹色にする工程）実験を行いました。絵巻に描かれている技術が検証され、真実性が確かめられました。また7月には、佐渡市において、佐渡金銀山の山師であった味方家の史料調査を行うとともに、平成25年度に発刊を予定している報告書についての打ち合わせを行いました。

世界的に見ても豊富で精緻な佐渡金銀山絵巻についてのこれまでの研究成果を、海外を含めたより多くの方々に紹介し、佐渡金銀山の世界遺産登録に役立てていきたいと考えています。



「相川の文化的景観ワークショップ」

世界遺産登録に向けては、核となる鉱山遺跡や関連施設のみならず、その周辺景観の保護も重要となります。そこで平成24年度から、鉱山と関係の深い相川の町並み景観について、将来的に守り活かすための方策を検討することを目的に、町並み保存のNPO法人・まちづくり団体等の地元関係者と、県・市等行政機関とによる官民一体のワークショップを開始することとしました。

ワークショップは、平成24年4月から毎月1回のペースで開催しており、参加者からは、相川の町家の特徴がわかる公開民家の整備や、佐渡の自然や文化の体験コースを盛り込んだ町家民泊の企画など、幅広い意見を聴くことができました。

今後も継続して開催するとともに、各地域へ出向いての談話会の開催も予定しています。



第1回 相川の文化的景観ワークショップ

親子で歩く世界遺産

平成24年7月8日(日)の午前、相川地区の相川金銀山周辺において、小学生とその保護者を対象に「親子で歩く世界遺産」を開催しました。

このイベントは、世界遺産登録運動の普及啓発事業の一環として、世界遺産登録候補地や施設について学び、理解を深めてもらうことを目的としています。

当日は、50名の親子の方々からご参加をいただき、「無宿人の墓」から「北沢地区」までを相川ふれあいガイドの方々により、ポイントごとに説明を受けながら、約2時間半をかけて歩きました。

また、イベント終了後、付近の相川郷土博物館や佐渡奉行所を見学する参加者も見受けられました。

今後も同様のイベントを開催する予定ですので、興味のある方は是非ご参加ください。

佐渡の金銀山は宝物

金泉小学校6年

吉村未央さん



私は佐渡の歴史に興味があり、以前相川地区のお寺を巡ったり、奉行所や大間港を見学したり、佐渡金銀山で栄えた当時の様子を学んだことがあります。

今回は「親子で歩く世界遺産(相川編)」に参加して、ガイドブックだけではわからない歴史や文化をガイドさんの説明を聞きながら楽しく知ることができました。

特に勉強になったのは旧相川拘置支所です。普段入ることができない場所で各部屋ごとに用途や工夫しているところを教えていただきました。それから北沢浮遊選鉱跡や50mシンクナーのタイナミックさにびっくりしました。1600年頃(江戸時代)に金銀山を中心に栄えた相川地区の町並みをたどりながら人々の生活が変化したことも感動を受けました。発電所のおかげで電気が使えるようになったり、人が増えたことによってお店やお寺が増えたりしたこともその一つです。

私はこの探検で見た遺跡や建物、そして積み重ねられた歴史は佐渡の人たちにとって大切な宝物ではないかと思います。ぜひ世界遺産に登録されることを期待します。



第1回 佐渡金銀山世界遺産登録推進懇談会

平成24年8月5日(日)、新潟県と佐渡市は、佐渡金銀山の平成29年度世界遺産登録に向けて、地域住民との情報共有・意見交換等を行い、地域と一体となった登録推進活動を行うため、佐渡市内で初めて懇談会を開催しました。世界遺産登録に向けた課題や、行政と地域住民との連携のあり方等について意見交換を行いました。懇談会には、島内のメディア関係者、経済団体、民間関係団体、集落区長等8名が委員として参加した他、商工会、婦人会、観光関係者等52名が傍聴しました。

委員からは、集落へ出向いての説明会や、北沢浮遊選鉱跡をコンサート会場として活用するPR策、小学生を始めとする若い世代への一層の周知といった提案が出される等、活発な意見交換が行われました。

第2回懇談会は、平成25年3月頃の開催を予定しています。



史跡保存管理委員会

本委員会では、史跡の保存を図りながら、将来的な修復・整備、積極的な公開活用を行うため、平成24年度から、建築・文化財保護・史跡整備・土木史等の学識者、行政関係者及び所有者等の委員の指導を得ながら、整備基本計画策定のため検討を進めています。

整備基本計画は、基本的な整備内容や手法を検討するとともに、史跡の保存状況の把握による優先度や実施の可能性に基づいた計画の検証を行い、具体的な整備に向けての道筋を明確にするものです。

平成24年5月23日～24日に委員による史跡の現地視察を行い、保存・整備ならびに活用に対する基本的な考え方や課題等について議論していただきました。



北沢地区現地視察

佐渡金銀山調査指導委員会



鶴子鉾山代官屋敷跡現地視察

佐渡市では、世界遺産の構成資産候補の調査・保存整備のため、平成20年度より「遺跡・建造物」・「文化的景観」の2分野からなる調査指導委員会を設置しています。

平成24年5月31日に開催された第1回の文化的景観専門分野会議では、重要文化的景観選定を目指す相川地区の調査の進捗状況について議論が行われました。これにあわせて、前日の30日にあいかわ開発総合センターで開催された文化的景観調査報告会では、約40名の市民が、相川の伝統的の家屋の特徴等について、熱心に耳を傾けていました。

また、遺跡・建造物専門分野では、6月28日に鶴子鉾山代官屋敷跡の現地視察を行い、これまでの発掘調査成果の検証や今後の調査予定等について議論がなされました。翌29日の会議では、西三川砂金山・新穂銀山・旧佐渡鉾山近代化遺産・寺院建造物を含めた全体的な調査計画等の検討が行われました。



世界遺産連続講座

新潟会場

平成24年度の世界遺産連続講座は、5月から7月にかけて新潟市の新潟大学駅南キャンパスときめいとで3回開催しました。

第1回では、松江工業高等専門学校教授の久間英樹氏が、「坑道内部の映像を見ながら、佐渡金銀山のすごさを語ろう!」と題し、ロボットによる鶴子銀山と新穂銀山の坑道内部の調査成果について、坑道内の映像を交えながら説明しました。

第2回では、佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問の大橋康二氏が、「佐渡金銀山の繁栄を語る多彩な陶磁器」と題し、主に佐渡奉行所跡から出土した佐渡金銀

山の繁栄を物語る江戸時代の陶磁器について解説しました。

第3回では、新潟県と佐渡市の調査担当職員が「調査の最前線～鶴子銀山跡 最新成果が語る技術と暮らし」と題し、これまでの鶴子銀山の発掘調査成果について報告しました。

各回の参加者はそれぞれの調査成果から佐渡金銀山の往時の繁栄に思いを馳せていました。



佐渡会場

佐渡会場の連続講座は、これまでの調査の成果報告を主眼として開催しました。

第1回は、(株)グリーンシグマの技術顧問である山崎完一氏が、平成18年度から平成23年まで行われた寺院建造物調査について、寺院の間取りや装飾などから見た時代による佐渡の寺院建築の特徴について講演しました。

第2回は、新潟県と佐渡市の調査担当職員が、平成23年から行われている佐和田地区の鶴子銀山遺跡発掘調査について、建物の柱穴や炉跡、出土遺跡などをもとにした調査成果について報告しました。

第3回は、松江工業高等専門学校教授の久間英樹氏

が、坑道内を調査する遠隔操作ロボットの実演と、ロボットによる坑道内の調査について報告しました。

最終回の第4回は、(株)ゴールデン佐渡取締役社長の澤邊一郎氏が、国内はもとより海外の鉱山での体験談などについて講演しました。

平成25年度も7月から9月にかけて連続講座を開催する予定です。佐渡金銀山に関係するテーマでご要望がありましたら、佐渡市世界遺産推進課までご一報ください。



首都圏向け佐渡金銀山講演会

平成24年6月2日(土)、東京国立博物館平成館大講堂において、首都圏向け佐渡金銀山講演会を開催しました。首都圏在住の佐渡出身者を中心とする210名が、佐渡金銀山の価値についての専門家による講演を熱心に聴講し、ふるさとの宝に対する認識を新たにしました。

◆講演「佐渡の金銀山に残る貴重な産業遺産群」
永松武彦氏(株)ゴールデン佐渡顧問

佐渡金銀山は鉱脈型としては世界最大級の金銀鉱山である。西三川で本格的な砂金採取が始まった15世紀半ばから20世紀末までの鉱業の変遷を辿ることができる遺跡等とともに、鉱山絵巻等の歴史資料が数多く残って



いる。また、佐渡は日本の近代化の発祥の地であるとも言え、佐渡金銀山は昭和18年まで日本の鉱業界をリードした鉱山であった。世界遺産登録に向けて、今後は佐渡金銀山が世界に与えた影響の調査、遺跡等の保存整備、歴史資料の調査・整理等をさらに進めていく必要がある。

◆講演「佐渡の町並みの魅力と価値」
—相川地区を中心に—
大場修氏(京都府立大学大学院教授)

相川上町の町家にはナンドを欠くという特異性がある。ナンドを持つ家屋を在り型町家、ナンドを欠く家屋を京都型町家とそれぞれ呼ぶことができるが、佐渡には両方が見られる。相川上町の町家は「平入」「ナンドを欠く」「通し柱構造」という点で、島外から伝えられた京都型町家と言える。日本の町家のすべての要素が佐渡にあり、佐渡の町家は日本の町家の縮図であると言える。相川上町には鉱山の上層職員の住宅が立地したが、それらは伝統的町家と同質化し、一体的な景観を形成している。相川上町の町並みは、佐渡金銀山の成立と発展を背景として形成された町並みであることが改めて裏づけられた。

佐渡金銀山遺跡 の調査

鶴子銀山関連遺跡・ 発掘調査の最前線

現在、佐渡市では、鶴子銀山に関連する遺跡のうち、代官所が置かれたとされる鶴子鉱山代官屋敷跡と、鉱山労働者の集落があった鶴子荒町遺跡の2つの遺跡の発掘調査を実施しています。

これらの遺跡は、いずれも16世紀末から17世紀前半頃のものとは推定されますが、当時の資料が少ないため、代官所や集落の規模、廃絶時期などわからないことが多い遺跡でした。今回の調査は、いつ、どのくらいの規模で、どのような建物や鉱山関係施設（選鉱場・製錬場）があったのかということをはっきりとさせる目的で実施しています。

今後の調査によって、鉱山の中心が相川へ変遷していく過渡期の様相や当時の鉱山技術の様子が明らかとなる可能性が高いと考えています。



BSN新潟放送創立 60周年記念番組

SADO GOLDEN ROAD ～世界を巡った佐渡小判(仮)～

平成25年1月1日に佐渡金銀山に関係するテレビ番組が放送されます。

その中で、テレビ番組では初めて、江戸時代の技術そのままの工法を使った小判の色揚げ作業が東京藝術大学学長の宮田亮平氏と東京大学資料編纂所専門職員の西脇康氏、そして佐渡高校の生徒によって再現されています。協力していただいた5人の生徒の感想をご紹介します。

テレビ収録の感想

岩崎左京（化学部部長 生物部）写真：中央

今回の実験は、実物の小判を使ったりしていて、とても面白い実験でした。こんな貴重な機会を提供して下さったBSNの皆さん、丁寧に教えて下さった宮田先生、西脇先生、本当にありがとうございました。

金子雅樹（生徒会長）写真：左から2番目

本当に貴重な体験をさせていただきました。本物の金は思ったよりも重量があり、持っていて心地良い重さでした。さらに昔の人の気持ちに少しだけなれた気がしました。今回のことは自分にとって一生の思い出です。

磯部菜々海（吹奏楽部）写真：右

この撮影に参加するまで、佐渡小判がどうやって作られていたのか全然知りませんでした。わざわざ金に薬品を塗って黄金色を再現していたことに驚き、小判へのこだわりを感じることができた貴重な体験でした。

濱西杏香里（化学部・演劇部）写真：右から2番目

今まで何度か金山に行ったことはありましたが、化学的な目で金を見るのは今回が初めてでした。思っていた以上に色の変



化があり、輝きも増したように感じました。とても貴重な体験ができて良かったです。

田中玲衣（化学部）写真：左

今回、撮影に参加したり、事前に金銀山について学んだりして、思ったより佐渡の事を知らなかったということに気づきました。これから大学等に行っても佐渡を忘れず、故郷を大事にしたいと思います。

仲間になりませんか

さまざまな保護・保全・登録推進活動などを行っている民間団体を紹介します

佐渡を世界遺産にする新潟の会 会長 池田 哲 夫

世界遺産登録を実現したい、応援したい、そんな熱い思いで平成24年3月20日に旗揚げしました。①新聞やテレビ・ラジオなどを活用したPR、②佐渡の文化遺産を知る現地学習会、③関係団体との連携事業、④会報の発行を主な柱として活動しています。会員は現在、個人・法人合わせて約900人です。

第一弾の学習会は6月に行い、新潟県と佐渡市の協力で西三川砂金山、鶴子銀山など貴重な見学・勉強の場を得ることができました。8月3日の新潟まつり民謡流しでは、佐渡の会の方々と総勢37人で参加、そろいの浴衣と黄色いのぼりで登録実現を訴えました。11月末には新潟県などと「佐渡金銀山フォーラム」を開催します。応援の輪をより大きく強くしていきたいと思っています。

お問い合わせ：佐渡を世界遺産にする新潟の会事務局
(新潟日報事業社内) TEL025-233-2195



佐渡金銀山 文学碑を訪ねて④

石碑に刻まれた「道すがら 雪折竹の 名残かな」の辞世を残した多十は、安永7年(1778)7月に佐渡へ送られた水替無宿の第一陣60人の中の1人。生国不明、38歳と記録にあります。

天明2年(1782)7月24日夜、多十は水替差配人の長五郎を、「遺恨あり」と斬り付け、11月19日死罪になります。長五郎は、多十とともに佐渡へ送られた上総生まれの無宿。4年の間に2人にどのような心の行き違いがあったのでしょうか。



出張説明・出前授業のご案内

佐渡市世界遺産推進課と新潟県世界遺産登録推進室では、新潟県内の団体・グループ・学校等が主催する勉強会などに、担当職員が出向き、佐渡金銀山や世界遺産についてわかりやすく解説します。派遣料は無料ですのでお気軽にお問い合わせください。



■一般向け【出張説明】

団体・グループ(20名以上)を対象とする出張説明です。集落や町内会・公民館活動・老人クラブ・婦人会・子ども会等、どこにでも伺います。

■学校向け【出前授業】

小・中・高校を対象とする出前授業です。1クラス1時限を基本としています。

☆事前に日程や内容などを相談のうえ、希望日の1か月前までにお申し込みください。

☆日程によっては、ご要望に添えない場合がありますので、ご了承ください。

☆連絡先 佐渡市世界遺産推進課 ☎0259-63-5136
新潟県世界遺産登録推進室 ☎025-280-5726

平成24年度 今後のイベント情報

※詳細はチラシやホームページ、市報さど、CNS等でお知らせします。

◆世界遺産国際シンポジウム 「歴史資料から見る佐渡金銀山」

日時	平成24年10月13日(土)12時30分～15時50分
会場	アミューズメント佐渡 小ホール
講師	レギーネ・マティアス氏(ドイツ・ルール大学教授) 他

◆佐渡金銀山世界遺産フォーラム

日時	平成24年11月25日(日)13時00分～15時30分
会場	朱鷺メッセ マリンホール
講師	松浦晃一郎氏(前ユネスコ事務局長) 他



新潟県・佐渡市

平成24年9月30日発行

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室
TEL025-280-5726
E-mail ngt500080@pref.niigata.lg.jp
佐渡市世界遺産推進課 TEL0259-63-5136
E-mail k-goldmine@city.sado.niigata.jp